



第1回

ほり くめの すけ
堀 条之助 の墓
(大町四丁目)

会津藩からの使者

続編の第1回目は、大町四丁目の龍泉寺にある、悲劇の会津藩士・堀条之助の墓を訪ねます。

条之助は天保9年(1838)に、会津藩士・堀清左衛門の長男として生まれました。文武に優れ、藩校南学館(身分の低い藩士の学校。上級藩士の子弟は日新館に学んだ)の助教となり、京都では精選組隊士となります。

戊辰戦争が始まると、藩主・松平容保と共に会津へ戻り新政府軍と戦いますが、明治元年(1868)8月23日に会津若松城は新政府軍に包囲され、厳しい籠城戦が始まりました。この危機に、堀条之助と吉村寅之進の二人は、容保から米沢藩へ援軍依頼の命を受け、敵の包囲網をぐりぬけて米沢に向かいました。

使命は果たせず…

二人の米沢到着は9月3日、直ちに米沢藩首脳に援軍要請しました。しかし時すでに遅く、米沢藩は新政府軍への降伏を決意した直後でした。

米沢藩は奥羽越列藩同盟の主軸として、主に越後で新政府軍と激戦を交えました。一時は長岡城奪回に成功しましたが、7月29日には新潟港が陥落し総督の色部長門も戦死、8月中旬には

敵兵が国境に迫る勢いでした。そうした中、上杉家と親戚の高知藩山内家や広島藩浅野家等から降伏斡旋が届き、ついに降伏を決めたのです。

援軍が無理と悟った条之助は、米沢藩が駄目なら仙台藩に依頼すべきとする吉村の意見を容れず、使命を果たせなかったとして、9月5日(新暦では10月20日)に宿舎で割腹しました。享年31でした。辞世の歌は

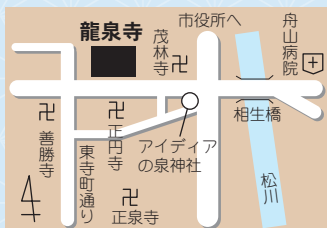
神かけて誓ひしことのかなはねば
ふたたび家路 思はざりけり

遺体は、その死を悼んだ米沢の人たちによつて龍泉寺に葬られました。

現在に続く慰霊

昭和46年、悲劇の会津藩士の事蹟を顕彰しようと墓が整備され、墓碑や辞世の歌を刻む石碑が建てられました。墓碑の揮毫は、松平容保の孫にあたる松平勇雄参議院議員によりまします。今でも市内や会津から

多くの人が墓参に訪れています。今年10月20日17時30分から墓前祭が催されますので、皆さん足をお運びください。



昨年の墓前祭は9月5日に行われました

城下町ふらり歴史探訪

平成5年~10年の広報よねざわ連載企画(市ホームページに掲載中)。米沢には、このとき紹介できなかった史跡がまだまだあります。続編として、今回から毎月1日号に連載します。

